

おokayama発展戦略会議 論点整理（案）

○これまでの検討の経緯

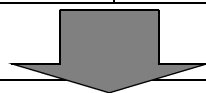
- | | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回会議 | 平成22年9月22日（水） <ul style="list-style-type: none">・ 座長選任・ 検討5分野の設定<ul style="list-style-type: none">①アジア経済、②環境・新エネルギー、③医療・福祉・健康④中山間・農林水産、⑤人材育成 |
| 第2回会議 | 平成22年11月30日（火） <ul style="list-style-type: none">・ 戦略の方向性について意見交換 |

1 アジア経済

【主なトレンド】

- ・国境を越えた企業活動や商取引、投資が活発化する中、アジア等へ進出する日本企業が増加している。
- ・アジア諸国は、目覚ましい経済成長によって形成された富裕層をはじめ、巨大な市場と豊富な人材を有している。
- ・中国、インドなどアジアを中心とする新興国は、日本企業の強力な競争相手となっている。

S (強み)	O (機会)
<ul style="list-style-type: none"> ○国際的機能を有する空港、港湾 ○ものづくり基盤技術の集積 ○多様で高品質な農水産物 ○急増する外国人留学生 ○地場産業等を通じたアジアとの歴史的なつながり ○恵まれた自然環境（水資源が豊富、晴天の日が多い、自然災害が少ない） 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国などアジアの市場拡大 ○中国などからの外国人旅行者の増加 ○海外での日本の高品質な農産品需要の増加 ○海外の水需要の増加
W (弱み)	T (脅威)
<ul style="list-style-type: none"> ○国際化の対応の遅れ（外国語対応） ○留学生を受け入れる職場、住居の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ○水島コンビナート内に立地する大企業等の生産拠点の再編・縮小 ○生産拠点の海外移転による空洞化 ○新興国の企業との競争 ○安価な海外製品の流入増加 ○外資系企業にとっての日本の魅力低下



【戦略の方向性】

○アジア企業とのパートナーシップの形成

- ・県内企業の海外進出をサポートする。
- ・海外企業と県内企業との連携を支援する。

○県内企業のグローバル化支援

- ・企業の研究開発部門、マザー工場等県内生産拠点の存続を図る。
- ・水島コンビナートの高付加価値化、高効率化、低炭素化を図る。
- ・成長分野の企業集積を図り、高付加価値型ものづくり拠点を形成する。

○世界に通用する人材の育成〈5 人材育成に再掲〉

- ・外国人教員や外国人留学生の受け入れ拡大等により異文化に接する機会を増加し、異文化の理解をはじめ、ビジネスに必要なスキル等を持つ企業人材を育てる。
- ・外国語によるコミュニケーション能力を有する人材を育てる。

○アジア市場への売り込み

- ・中国等の富裕層をターゲットに高級農産物の輸出拡大を図る。〈再掲〉
- ・交通の拠点性や魅力を生かし、新たなインバウンド事業を推進する。

<参考>

【プロジェクトの例】

- 1 海外進出企業のグローバル戦略支援
 - ・海外進出企業のビジネスサポート
 - ・現地商談会の開催
 - ・研究開発部門、マザー工場等の誘致・存続支援 など
- 2 次世代モデルコンビナート構想
- 3
- 4

(これまでに提案のあった施策・事業の例)

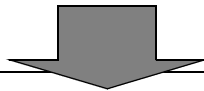
- ・海外進出企業のビジネスサポート
- ・県内企業の研究開発部門の支援
- ・水島コンビナートの低炭素化、高効率化の推進
- ・技術革新による高付加価値製品の開発
- ・シニア人材を活用した技術力の強化
- ・小学校や幼稚園からの英語教育の実施 <再掲>
- ・県立学校海外交流の推進 <再掲>
- ・県立高校での英語によるディスカッション、ディベート授業の実施 <再掲>
- ・英語を公用語とする学校や海外研修を必須とする学校の創設 <再掲>
- ・大学における英語授業、海外からの教授の招聘 <再掲>
- ・グローバルに活躍できる幹部人材の育成 <再掲>
- ・工業英語、ビジネス英語の使える人材の育成 <再掲>
- ・産学官連携によるアジアの優秀な留学生を対象とした奨学金制度の創設<再掲>
- ・高度人材の受入拡大 <再掲>
- ・国際競争力のある高付加価値の果物、米等の売込
- ・パッケージ化した「農業システムの輸出」
- ・「友好都市」との連携を活用したアジアにおける岡山の拠点形成
- ・岡山空港等交通機関のグローバル的な受入体制整備
- ・観光客のニーズに対応した受入体制の整備
- ・留学生の受入・定着の増加促進

2 環境・新エネルギー

【主なトレンド】

- ・世界的な課題である地球温暖化対策は、CO₂の排出抑制という形で経済活動などを長期的に制約する。(環境制約)
- ・世界の人口やエネルギー需要等が拡大する中、化石燃料をはじめとする資源の枯渇や水不足が懸念されている。
- ・地球温暖化対策とエネルギーセキュリティの両面での役割が期待される新エネルギーは、国の戦略によって急速な普及拡大が見込まれる。

S (強み)	O (機会)
<ul style="list-style-type: none"> ○木材産業、バイオマス関連企業の集積 ○恵まれた自然環境(水資源が豊富、晴天の日が多い、自然災害が少ない) ○電気自動車への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国などアジアの市場拡大 ○国の政策転換(全量固定価格買取制度等) ○電池市場の拡大 ○電気自動車の普及 ○海外の水需要の増加
W (弱み)	T (脅威)
<ul style="list-style-type: none"> ○少ない新エネルギー関連の企業集積 	<ul style="list-style-type: none"> ○石油等のエネルギー価格の高騰 ○温室効果ガスの25%削減



【戦略の方向性】

- 新エネルギーによる活力創出
 - ・メガソーラーや新エネルギー関連企業の誘致を図る。
 - ・中山間地域等の森林資源、河川や農業用水を新エネルギーとして活用する。
 - ・排出権取引など環境価値市場を創出する。
- 低炭素型ライフスタイルの普及
 - ・EVや次世代自動車などの開発・普及により低炭素型交通システムの普及を図る。
- 対アジア環境ビジネスの育成
 - ・大気、水質、省エネ等の技術をパッケージ化し、アジアへの輸出を図る。
- 新エネ人材の育成
 - ・新エネルギーの地産地消に取り組むNPO法人等の育成を支援する。

<参考>

【プロジェクトの例】

- 1 新エネルギー誘致戦略
 - ・ 県内遊休地へのメガソーラー誘致
 - ・ 新エネルギー関連企業の誘致

- 2 低炭素型交通システムの構築

- 3

- 4

(これまでに提案のあった施策・事業の例)

- ・ 県内遊休地へのメガソーラー誘致
- ・ 新エネルギー関連企業の誘致
- ・ 市民メガソーラー制度の創設
- ・ オンサイト発電の展開支援
- ・ 中山間地域の棚田を活用した太陽光発電の施設整備
- ・ 木質バイオマスの利活用に向けた岡山ルールの確立
- ・ 街中等の水路を活用したマイクロ水力発電

- ・ 水素燃料電池車等の次世代自動車の開発研究
- ・ 電池関連産業の育成
- ・ 環境に優しい、新エネルギーを使った交通システムの整備

- ・ アジアへの環境保全技術（水、大気、省エネ）の売り込み

- ・ 新エネルギーの地産地消に取り組むNPO法人等の育成支援

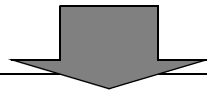
- ・ 規制緩和や規制強化による新エネルギー、環境等の新たな市場の創出

3 医療・福祉・健康

【主なトレンド】

- ・日本の高齢化率は世界に類を見ない水準に達しており、医療・介護にかかるコストの増大はもとより、社会保障制度全般に対する不安が高まっている。
- ・医療費抑制にもつながる予防医療や健康づくりへの社会的ニーズとともに、がん医療など高度な医療へのニーズも高まっている。
- ・介護が必要な高齢者は飛躍的に増大することが見込まれるが、介護業務従事者は不足しており雇用のミスマッチが発生している。

S (強み)	O (機会)
<ul style="list-style-type: none"> ○医科大学、医療機関の集積 ○高度な医療水準 ○中四国の交通の結節点 ○福祉の伝統 ○産学官連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○先進医療需要の増加 ○医療観光等医療サービス分野の国際化の進展 ○医薬品、医療機器、介護ロボット分野の世界市場の拡大 ○中国などからの外国人旅行者の増加 ○技術革新の進展 ○国の規制緩和の動き
W (弱み)	T (脅威)
<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関の地域的偏在 ○診療科の偏在 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会保障制度に対する不安 ○高齢者増加に伴う現役世代の負担の増加 ○介護、看護の担い手の不足



【戦略の方向性】

○健康をテーマとした地域の活性化

- ・地域産品による健康食や健康をテーマとした周遊ルートを設定し、国内外からの医療観光を推進する。
- ・医療・介護機器の開発、健康関連サービス産業の創出と集積を図る。

○岡山発医療・介護システムの構築

- ・先端的医療・介護機器（人間の身体機能を増幅・強化するロボット）を活用した、新たな医療・介護システムを構築する。

○メディカルベンチャーの育成

- ・ベンチャーファンドを創設し、メディカルベンチャーの育成に努める。

○国際的な医療人材の育成

- ・大学病院を中心に外国人医療従事者の受入を促進する。
- ・国際的に活躍できる日本人医療従事者を育てる。

<参考>

【プロジェクトの例】

1 グローカルな健康拠点の形成

- ・地域産品による健康食や健康をテーマとした周遊ルートの設定、国内外からの医療ツーリズムの推進
- ・医療・介護機器の開発、健康関連サービス産業の創出・集積
- ・大学病院を中心とした外国人医療従事者の受入促進 など

2 岡山発医療・介護システム開発

3

4

(これまでに提案のあった施策・事業の例)

- ・医療ツーリズムの推進
- ・岡山のアグリ分野のブランドを生かした機能性食品の開発
- ・全国販売を展開するための食品産業等との連携
- ・若い女性をターゲットとした美容プログラムの設定

- ・身体機能を増幅・強化するロボットのリハビリへの導入
- ・介護者の負担軽減を目的とした、身体機能を増幅・強化するロボットの介護分野への導入

- ・ベンチャー育成のためのファンドの創設

- ・外国人医療従事者の受入促進
- ・日本人医療従事者のグローバル化

- ・圏域ごとに、地元の総合医→専門的病院→大学病院等というシステムの整備
- ・診療所と介護施設がコンパクトな空間にある、医療と介護をセットにしたシステム整備
- ・整備された ICT 環境を生かした遠隔医療システムの確立

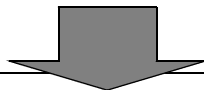
- ・岡山大学医学部と近隣県の医大との広域連携による、学生や患者の相互移動システムの構築
- ・岡山大学やブロック内の大学の文系のプログラムとの連携

4 中山間・農林水産

【主なトレンド】

- ・アジア・アフリカ諸国を中心として世界的に人口が増加する中、食料供給の安定化が世界的な課題となっている。
- ・東アジアを中心に日本産の高級農産物の輸出額は順調に増加している一方、FTA や TPP 参加について議論が高まる中、農業の国際競争力強化が求められている。
- ・中山間地域では過疎化・高齢化が急速に進行しており、若年層の流出防止及び定住促進のための雇用創出や経済基盤の確立が不可欠となっている。

S (強み)	O (機会)
<ul style="list-style-type: none"> ○多様で高品質な農林水産物 ○恵まれた自然環境（温暖な気候） ○木材産業、バイオマス関連産業の集積 	<ul style="list-style-type: none"> ○見直される水源かん養や国土保全等の多面的な機能 ○中国などアジアの市場拡大 ○食の安全志向等への関心の高まり ○エコツーリズム、グリーンツーリズムへ関心の高まり ○海外での日本の高品質な農産品需要の増加
W (弱み)	T (脅威)
<ul style="list-style-type: none"> ○広がらない地域ブランド力 ○進まない農地の集積 ○中山間地域における農林水産業の高い生産コスト ○少ない雇用の場 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少、過疎化 ○中山間地域の担い手の高齢化 ○FTAやTPPへの参加の議論 ○未手入れの山林や耕作放棄地の増大



【戦略の方向性】

- 大規模農業経営体の育成
 - ・農地の集積を図り、経営体の大規模化を図る。
 - ・企業等新たな担い手の参入を促進する。
- 多様な岡山ブランドの育成
 - ・植物工場等も活用した海外への輸出を展望できる生産技術を構築する。
 - ・中国等の富裕層をターゲットに高級農産物の輸出拡大を図る。
 - ・多種多様な海の幸の販路拡大や情報発信を図る。
- 地球環境に配慮した林業の再生
 - ・CO₂の吸収体や貯蔵体である森林の整備を促進し、林業の再生を図る。
- スモールビジネスの育成
 - ・地域経済が循環するスモールビジネスモデルを確立する。
 - ・6次産業化、高付加価値化により地域の農林漁業者の育成を図る。
- 地域をリードする人材の育成
 - ・地域内での生産・流通・販売までをマネジメントする人材を育成する。
 - ・創業支援について、技術・知見を持ったシニアを活用する。〈再掲〉
 - ・若者や女性に活躍の場を与え、能力ある人材を育成する。

<参考>

【プロジェクトの例】

- 1 産業としての農業の育成と地域を守る農業の支援
 - ・農地集積の促進
 - ・企業と地域のマッチング機能の強化による企業参入の促進
 - ・里山、里海を生かした、グリーンツーリズム・ブルーツーリズムなどの交流・定住ビジネスの推進
 - ・6次産業化の推進 など

- 2 地域のヒト、モノ、情報をつなぐスモールビジネス

- 3

- 4

(これまでに提案のあった施策・事業の例)

- ・大規模化のための農地集約の促進助成
- ・大規模農家を育成するための経営支援
- ・高付加価値製品の海外への輸出
- ・企業と地域のマッチング機能の強化による企業参入の促進
- ・ブランド力のある製品の開発
- ・新しい視点からの水産業の展開

- ・県産材の集積加工センター基地の整備
- ・製材端材のバイオマスエネルギー利用
- ・アジアへの木材の輸出
- ・岡山版カーボンオフセットの仕組みづくり

- ・コミュニティビジネス、スモールビジネスの育成
- ・地域経済が自立するためのコミュニティファンドの創設
- ・地域を守る農林水産業の育成
- ・6次産業化の推進
- ・里山、里海を生かした、グリーンツーリズム・ブルーツーリズムなどの交流・定住ビジネスの推進

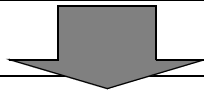
- ・地域の人材を活用した小学校との連携
- ・地域内の商業活動のマネジメントに加え、地域外の消費地との取引をマネジメントする人材の育成
- ・シニア人材の活用によるローテクベンチャーの支援 <再掲>
- ・若者・女性への活躍の場の提供による地域を担う新たな人材の育成

5 人材育成

【主なトレンド】

- ・就職難の長期化、多数のフリーターやニート、「内向き志向」、科学離れなど、今後の発展を支える若者が希望を持ちにくくなっている。
- ・現役として活躍できる高齢者が増加している一方、ものづくりなどの分野で、団塊の世代が持っている技術や技能が十分には継承されていない。
- ・国籍、性別、年齢などにかかわらず多様な人材の能力を活用することが企業価値を高めるとの考え方が広がり始めている。

S (強み)	O (機会)
<ul style="list-style-type: none"> ○大学、短大の集積 ○医科大学、医療機関の集積 ○岡山オルガノンなど大学間連携の取組 ○中四国の交通の結節点 	<ul style="list-style-type: none"> ○海外からの留学生の増加 ○人材育成ニーズの増加 ○グローバル人材のニーズの増加 ○団塊の世代の持つ技術や技能継承の可能性拡大
W (弱み)	T (脅威)
<ul style="list-style-type: none"> ○大都市圏への若者の流出 ○不十分な高次都市機能の集積 ○拠点性の高い阪神と広島に挟まれた位置 ○低下が目立つ小中学生の学力 	<ul style="list-style-type: none"> ○生産拠点の海外移転による空洞化 ○若者の内向き志向、科学離れ ○留学先としての日本の相対的位置の低下



【戦略の方向性】

○世界に通用する人材の育成

- ・外国人教員や外国人留学生の受け入れ拡大等により異文化に接する機会を増加し、異文化の理解をはじめ、ビジネスに必要なスキル等を持つ企業人材を育てる。
- ・外国語によるコミュニケーション能力を有する人材を育てる。

○シニア人材の活用

- ・創業支援について、技術・知見を持ったシニアを活用する。

<参考>

【プロジェクトの例】

1 グローバル人材育成計画

- ・幼稚園から小中学校、高校、大学における英語教育の充実
- ・遊びや食事などの日常生活を通じ、楽しく英語が体験できる場の提供
- ・産学官連携によるアジアの優秀な留学生を対象とした奨学金制度の創設
- ・専門職外国人、留学生等高度人材のビジネスへの活用 など

2 元気なシニアの活用

3

(これまでに提案のあった施策・事業の例)

- ・小学校や幼稚園からの英語教育の実施
- ・県立学校海外交流の推進
- ・県立高校での英語によるディスカッション、ディベート授業の実施
- ・英語を公用語とする学校や海外研修を必須とする学校の創設
- ・大学における英語授業、海外からの教授の招聘
- ・グローバルに活躍できる幹部人材の育成
- ・工業英語、ビジネス英語の使える人材の育成

- ・産学官連携によるアジアの優秀な留学生を対象とした奨学金制度の創設
- ・高度人材の受入拡大

- ・外国人医療従事者の受入促進 <再掲>
- ・日本人医療従事者のグローバル化 <再掲>

- ・シニア人材の活用によるローテクベンチャーの支援

- ・若者・女性への活躍の場の提供による地域を担う新たな人材の育成 <再掲>

岡山の発展戦略に対する
経済6団体、市長会、町村会からの提案内容について

アジア経済

- ・ アジア圏域からの企業の誘致
- ・ 県内産の農作物の輸出促進の制度化
- ・ 観光客の増大に寄与する具体的なシステムと役割分担

- ・ 水島工業地帯が生き残っていくための戦略
- ・ 循環型次世代産業の育成（バイオマスのエネルギーやマテリアル活用))

- ・ 岡山に定住して働く外国人が、安心して住める体制の整備

環境・新エネルギー

- ・ EV関連産業の成長促進
- ・ 新エネルギーを活用したスマートグリッドの確立
- ・ 蓄電池産業の誘致

医療・福祉・健康

- ・ 岡山大学を中心とした医師派遣システムの確立
- ・ 医療トラブルに関する弁護士相談体制の整備
- ・ ピッツバーグを参考とした医療の集積の推進

- ・ 高度な医療技術を生かした医療ツーリズムの推進
- ・ 営利企業の医療への参画・医療ツーリズムの推進による医療体制の崩壊（市民の受診機会の逸失など）の懸念

中山間・農林水産

- ・ 瀬戸内海に面した本県の特性を生かした施策の展開
- ・ 交流型産業（地域資源を活用し、都市住民や企業等とのパートナーシップを積極的に進め産業レベルの交流に高めていく）の育成
- ・ 就職先のない若者を、集約的な農業、林業、水産業に取り込む。
- ・ 定住促進のための空き家対策や県産材を使った住宅への補助

人材育成

- ・ グローバル人材の育成は会社に入ってからでは遅いので、中学、高校から国際感覚を養うことが必要。

全般

- ・ 岡山県の観光の未来発展戦略が必要
- ・ 多くの人を呼び込むためのコンベンション、メッセの積極的誘致
- ・ 高齢者が住みやすいと思う、車社会ではない街づくり
- ・ 戦略の具体化が重要。
- ・ 刻々と動いている市場と経済に対応するため、足早に事を仕掛けていく姿勢が必要。